

前田康裕 著

まんがで知る 教師の学び

これからの
学校教育を
担うために



◆まえがき

教師になって三十年以上が過ぎました。

新任一年目から感じたことは、先輩教師の自己研鑽への強い意欲でした。休日にも関わらず自主的な研究会やセミナーなどに参加する先輩方が多く、私も大いに影響を受けました。校内研修においては、熱心に授業研究会が行われ、先輩方の授業に対する熱い思いを感じたものです。

日本の教育は、このような教師による自主的な資質能力の向上への取組みによって支えられてきたと言えます。

一方、その間に社会は情報化と国際化が急激に進みました。そして、生活科、総合的な学習の時間、情報教育、英語教育、キャリア教育、食育、といった社会の変化に応じた様々な教育も加えられてきました。道徳や特別支援教育の充実も図られるようになってきています。

さらには、いじめや不登校等の生徒指導上の問題への対応も求められています。保護者の価値観も多様化し学校への要求も大きくなり、教師への信頼や尊敬は失われつつあるように感じます。

このような現状の中、教師の仕事は過酷さを増し、精神疾患で休職する教師は増えている状況です。しかし、教師が、未来の社会を築く子どもたちを導く重要な存在であることに今も昔も変わりは

ありません。このような困難な時代にあっても、教師として「学び続ける力」を高めたいと願う熱意のある教師は全国にたくさんいるのです。

本書は、このような熱意のある教師との連帯のメッセージとして書いたものです。教育学や心理学の言葉を漫画にすることはイメージを固定化してしまうという短所もあるのですが、ストーリーを通して学べるので印象に残りやすいという長所もあります。現役の教師が漫画で教育書を書くことは簡単なことではありませんでしたが、自分自身の知識と技能を精一杯盛り込んだ内容にしたつもりです。また、漫画の中のキャラクターが様々につまづきますが、これらは全て私自身の失敗の経験を基にしたものです。本書が読者の皆様のお役に立てれば、これほどうれしいことはありません。

各章の最後のページでは、「絶対読みたいビジネス書」というコラムをもうけました。勉強熱心な教師でもビジネス書を読む機会は意外と少なかったりするものです。ビジネス書の定番とも言える有名な本ばかりですが、ぜひ一読をおすすめします。

きつと、人生が前向きに変わると思います。

1 「そもそも思考」で考えよう

そもそも、学ぶとは何か？ 000

コラム◎絶対読みたいビジネス書 ①

テール・カーネギー『人を動かす』 000

2 技術的合理主義の限界

省察（リフレクション）を繰り返しながら成長する 000

コラム◎絶対読みたいビジネス書 ②

ステイブン・R・コヴィー『完訳7つの習慣』 000

3

リフレクションと自己改善

成長するためには授業観を磨くこと

000

コラム◎絶対読みたいビジネス書

③

P・F・ドラッカー 『プロフェッショナルの条件』

000

4

タイムマネジメント

多忙感に負けない仕事術

000

コラム◎絶対読みたいビジネス書

④

ハイラム・W・スミス 『TQ心の安らぎを得る究極のタイムマネジメント』

000

5

学び合いと社会的構成主義

授業形態の真似で終わらせないために

000

6

発達の最近接領域の理論と実践知・学問知

—— 専門家集団がビジョンを共有すれば…… 000

コラム◎絶対読みたいビジネス書 ⑤

トニー・ブザン『マインドマップ読書術』 000

コラム◎絶対読みたいビジネス書 ⑥

リンダ・グラットン『ワーク・シフト』 000

7

教師に必要な21世紀型能力

—— 自身の強みを生かした未来設計 000

コラム◎絶対読みたいビジネス書 ⑦

マーカス・バッキンガム&ドナルド・O・クリフトン『さあ、才能に目覚めよう』 000

8

レジリエンスと学習する組織

学び続ける教師とは 000

コラム◎絶対読みたいビジネス書 ③

ナボレオン・ヒル『思考は現実化する』

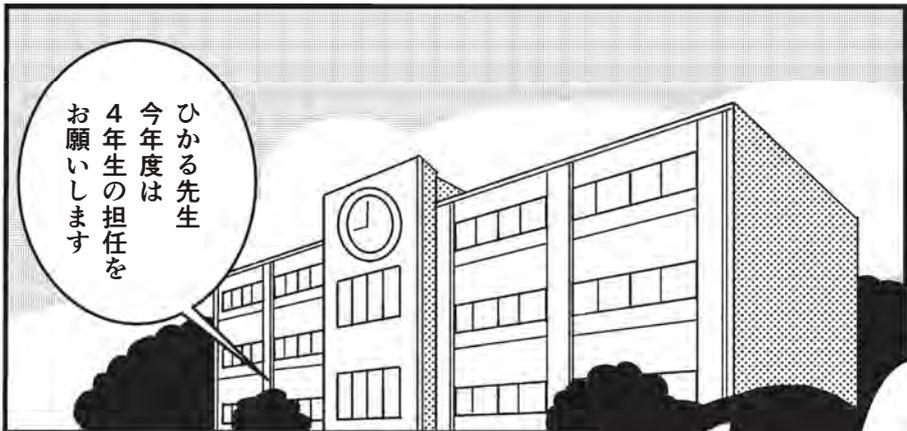
000



第1章

「そもそも思考」で考えよう

そもそも、学ぶとは何か？



ひかる先生
今年度は
4年生の担任を
お願いします

はい！
わかりました



4年学級担任
なつむら
夏村ひかる(28)



ひかる先生は
教職6年目だから
安心です

新卒の先生が
来るので
しっかり指導
してください

が…
がんばります

新卒の先生が
来るのか…
自信ないなあ

じゅくた いくお
校長 **塾田生夫(58)**



わたしは
4年学年主任に
なったわ
いっしょに
がんばり
ましょうね

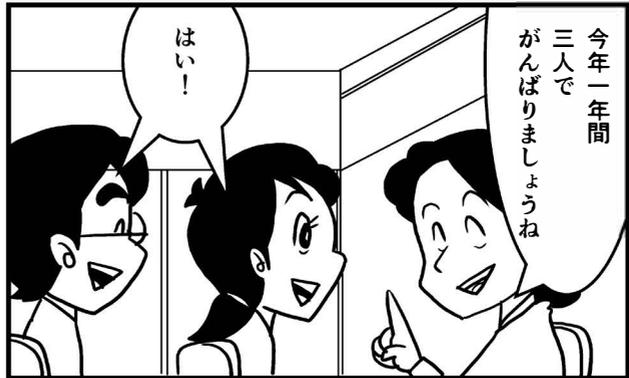
こちらこそ
よろしく
お願いします

ラッキー！
ベテランの師村先生と
同じ学年だ！

しむらのりこ
4年学年主任 **師村範子(51)**



新卒教師
ね っ と けんさく
根津戸健作(22)



4年3組

では
まず名簿の順番に
すわってね

学級担任の経験も
6年目

今年度
皆さんの
担任となります
夏村ひかるといいます

明るくて
楽しい学級に
していきたいよね

学級びらきの最初の三日間は
とっても重要だ

学級の目標を
決めるわよ

学級のしくみを
この期間に作り上げる

給食の
ルールは
こうして
いきましよう

ヒロシくんは
掃除が
とっても
上手ね

一人一人の
子どもたちの
良さを
評価して
伸ばしていく

少しずつ
学級も
集団らしく
なっていく

でも最近は何か違うように感じてきた…

ではこの問題…

答えは3メートルです

はい、そうですね

どうぞーす

いつも同じパターンの授業の繰り返し…

グループ学習も今ひとつもありあがらないし…

テストしてみるとよくわかっていない子どもも多い

うーん、学力差がはげしいなあ…

あっ！明日の授業の準備をしなくちゃ！

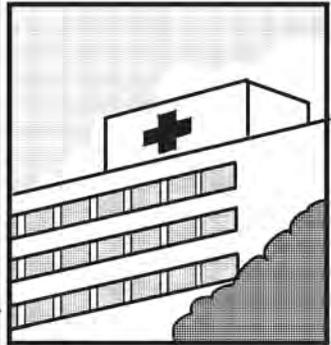
たしか発問・指示集の本があったはずだ

色々気になるけど明日の授業の準備に追われて時間がない…ああ…教師ってなんて忙しいのかしら

しかし
少しづつ
ほころびも見えてくる









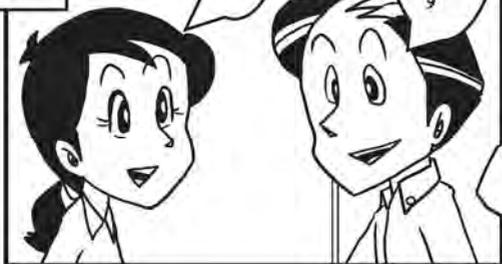
はじめまして
吉良良介といたします



よろしく
お願いします

こ…
こちらこそ

わりと
普通の人だな



わりと
普通ですね

直接
言うか…

もちろん
普通だよ



臨時採用教師
きらりょうすけ
吉良良介

好きな女性の
タイプは
米倉涼子
ですよ？

どうして
そのことを
知っているの？

SNSの情報によると
会議中は
起きているのか
寝ているのか
よく分からない
そうですね

まいったなあ
ぼくよりくわしいなあ



その日の夕方

会議室

では
研究主任より
今年度の研究について
提案してもらいます

今年度も昨年度と同じく
「子どもが輝く豊かな学び合い」
という研究テーマにします

キーワードは
「学び合い」
ヴィゴツキーの
発達理論を根拠とします

研究主任
つるぎだ きゆうぞう
剣田 究造 (42)

今年も
「豊かな学び合い」が
研究テーマか

研究授業が
あたらないといいなあ

吉良先生
聞いているのかな
寝ているのかな

今日来られた吉良先生
何か質問はありませんか？

はい
「学ぶ」って
何ですか？











4年3組

何かに気づくことによって
見えるものが変わるはず

では
昨日の復習から
はじめましょう

では
次の問題にいくよ

発表してもらいます

はい

ナツミさん

今までと
同じような
授業の光景……

その答えは……

よし！
見方を

変えてやる！

あっ！



エミさんが
あくびしてる
きつと
簡単すぎて
退屈して
いるんだ



タケシさんは
手遊び…
逆に
分からなくて
退屈して
いるんだ

グループワークでは
話し合っているように
見えるけど
実際に活躍している子は
ほんの一部だけだ…



できる子が
できない子に
教えるだけ…
こんなの
学び合いじゃない…

気づくって
こういうことか…



子どもを変えるんじゃない
自分が変わるんじゃない



タケシくんが言ったように
私の教え方に問題があるんだ…

「そもそも思考」で考えよう

われわれ教師は、新しい言葉や方法が提案されると、すぐにそれに飛びついてしまつて、その意味を深く考えないことがあります。

2003年のPISA調査^{*}で読解力の低下が話題になつたときに、「PISA型読解力を高める指導方法」がブームになつたことがあります。その頃、多くの教師は表やグラフの読み取りの実践例などを取り上げて研究していたように思います。しかし、そこで彼らに「そもそもPISAって何ですか？」と尋ねたところ、十分な回答は得られないことがありました。

PISAの意味や目的、それを行ったOECDが求める能力について考えていくと、主要能力と言われるキー・コンピテンシーという言葉の意味もよく分かります。それらが、国家の教育政策全般に生かされていることに気づくと、これから教育すべき内容も方法も違つたものに見えるはずで

研究主任になつたら、「そもそも研究とは何か」ということを考えてみることで、総合的な学習の時間の担当になつたら「そもそも総合的な学習とは何か」ということを考えてみることで、このように、「そもそもそれは何なのか」ということを考えてみると、その本質が見えてきます。

★そもそも、「学ぶ」とは何か？

多くの学校の研究テーマを見てみると、「学ぶ」という言葉が頻繁に登場します。たとえば、「自ら学ぶ子どもの育成」「共に学び合う子どもの育成」「学ぶ喜びを味わう子どもの育成」といった具合です。

そうした研究テーマも、「そもそも思考」で考えると、言葉の意味が曖昧であることに気がきます。「学ぶ」と「習う」の違いや、「学び合う」と「教え合う」の違いを考えることで、「学ぶ」このの意味は明確になっていきます。また、辞書で調べただけではなく、論文や書籍等で調べながら、仲間と議論することで、「学ぶ」の意味が深く理解されるようになるでしょう。

また、私は、子どもたちにも言葉の意味を明確に示すようにしてきました。漫画の中で吉良先生は、学ぶことを「何かに気づき 自分が変わること」と定義しています。そのことを子どもたちが理解すれば、学校内外の様々な場面で学ぶことができるようになります。たとえば、季節によって風の向きが変わることや、新聞で使われるグラフの種類などを日記に書いてくるようになったのです。つまり、常に何かに気づき自分を変えようとすれば、もの見え方や捉え方が変わってくるのです。そう考えると、何よりも教師自身が学ぶことが問われているのではないのでしょうか。自ら学ぶ教師になっているのでしょうか。共に学び合う教師になっているのでしょうか。学ぶ喜びを味わう教師になっているのでしょうか。

※OECD（経済協力開発機構）による生徒の学習到達度調査

① 『人を動かす』

デール・カーネギー
(山口博訳、創元社)



カーネギーは人を動かす三原則として「①批判も人の非難もしない。苦情も言わない」「②素直で誠実な評価を与える」「③強い要求を起こさせる」と述べています。この三原則は、学級担任として子どもたちと接するときにも、社会人として同僚と接するときにも極めて有効に働きます。

また、「他人を矯正するよりも自分を直す」「どんな人でも自分より何らかの点で優れており、学ぶべきところをそなえている」といった言葉には感銘を受けました。相手の立場に立って考えるというカーネギーの人生哲学を学ぶことができます。

ビジネス書の定番とも言える本書ですが、教師で読んでいる人は意外と少ないようです。20代の頃に読んで強く影響を受けた本ですが、50代になって読み返してみると新たな発見もありました。全ての社会人が読むべき一冊と言えましょう。